

松野昭二教授退任記念論文集の刊行にさいして

経済学部長 奥 地 正

松野昭二先生の定年によるご退職にさいして、『立命館経済学』において退任記念論文集を特集し、ここに刊行することになりました。

松野先生は1996年3月31日をもって、定年によって立命館大学教授の職を退かれます。先生は1957年4月に、立命館大学経済学部にも非常勤講師として着任されました。それ以来今日まで39年の長きにわたって、立命館大学および経済学部の発展のために尽力してこられました。この間の先生の多大のご功績をたたえ、そのお人柄を敬愛し、ここにささやかながら記念論文集を編集・刊行し、先生に贈呈することになりました。

松野先生は1930年に大阪市でお生まれになり、戦後、大阪外事専門学校（中国語科）を経て、1953年に大阪外国語大学を卒業されました。卒業と同時に同大学の中国語研究室の助手に任用されましたが、その後、大阪市立大学経済研究所の嘱託を経て、1957年に立命館大学の非常勤講師に就任されました。以来39年、1962年に専任講師、65年に助教授、71年に教授に昇任されましたが、この間一貫して中国経済論の担当者として学部および大学院の教育に当たられる一方、研究面では中国現代史、わけても中国革命以降の経済建設やその後の体制改革と対外開放政策などについて研究を進めてこられました。1983年10月から1年間は、先生は国外留学制度によって中華人民共和国に滞在され、中国社会科学院経済研究所（当時、董輔弼教授が所長）で研究に従事され、また、上海復旦大学に移られてからは中国各地の各種工場、農村や市場などを数多く視察され、国際的な研究交流を果たされました。

また、この間、龍谷大学経営学部や大阪外国語大学などで、現代中国経済論や中国政治経済特殊研究などを講じてこられました。

松野先生のご研究の一端を紹介すれば、一つは中国現代史のご研究であり、二つには中国革命以降の経済建設、とくに農業政策と協同組合・人民公社についてのご研究であります。この後者の領域については、「社会主義的農業生産協同組合の設立・生産と分配」（1956年）から、「人民公社における分配問題に関する若干の考察」（1960年）を経て、「中国農業の現代化序論」（1964年）にいたる一連の業績があります。三つ目は1979年以降の中国の対外開放政策についてのご研究であり、この面では「中国経済体制改革の理論的根拠にふれて」（1986年）や「現代中国の人口問題および人口政策」（1993年）などの論文があります。四つ目は中国の経済理論や代表的な経済学者の日本へのご紹介であり、この面では董輔弼教授（北京大学教授、中国社会科学院経済研究所名誉所長）の業績のご紹介が目立っています。

こうして現代中国経済について研究を積み重ねられる中で、中国経済学界をはじめ広範な分野の中国の人々と交遊を深められる一方、国内では長年にわたって枚方市の日中友好協会の会長として、日中両国の友好親善に尽くしてこられました。また、枚方市では、社会教育委員など数々の役職を務めてこられました。

そして、この間、現代中国学会の理事・幹事を歴任される一方、学内では経済学部主事、経済学部長・研究科長、大学協議員などを歴任してこられました。

21世紀はアジアの時代といわれ、本学もアジア太平洋大学の創設をめざしている今日、先生をお送りすることは誠に惜しいかぎりではありますが、これも時の定めかと思われま

幸い先生はお元気であり、ご退職後も今年4月から本学の特別任用教授に就かれます。今後とも一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、先生がご健康に十分に留意され、新たなご活躍を展開されますよう心から祈念して、送別の言葉といたします。

1996年2月